

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

めあて

「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作

やくわりをきめて、音読げきのれんしゅうをしよう。

れんしゅうする場めん↓五の場めん後はん

(えっちゃんが大男に立ちむかう場めん)

○ 音読げきのれんしゅうのしかた

- ① これまでに学しゅうした音読のくふうを思い出す。
- ② やくわりをきめる。
- ③ 自分の読みのめあてをきめる。
- ・ 人物になりきって音読する。

・ 「、」や「。」でのくぎり、「間ま」のとり方も気をつける。

④ グループでれんしゅうをする。

- ・ うごきを入れるところやうごき方について話し合う。
- ・ お互いに聞き合って、ほめたりアドバイスしたりする。

○ 他のグループに見てもらおう

- ・ グループで見せ合って、ほめてもらったりアドバイスしたりする。
- ・ アドバイスしてもらったことを生かして、さらによい音読げきにする。

【10・11/15 時間目 指導略案】

使用するワークシート⑩

活動のねらい

役割を決めて、音読劇の練習ができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。(十時目のみ)

- 教室の掲示物で、これまでに学習した音読の工夫を生かして、音読劇の練習をすることを確認する。

2 練習の仕方を知る。(十時目のみ)

- 板書で、練習の仕方を説明し、役割を決める。
- ※ グループの数と構成人数は、学級の実態に応じて調整してよいでしょう。

3 練習をする。

- 音読の工夫を生かすことができている児童には、「ここはどんな気持ちだったかな？」などと問いかけたり、掲示物を示したりしながら、工夫を生かすことができるように支援する。

※ 練習の場面を録画(音)し、児童に見せる(聞かせる)ことにより、よりよくしようという意識をもつことができるでしょう。

4 グループで見せ合って、意見交換する。

- よいところをほめてもらったり、アドバイスをもらったりして、さらによい音読劇にさせる。

評価 物語のおもしろさを伝えようと音読劇で自分の思いを表現しようとしている。(ア1)

登場人物になりきって工夫して音読している。(イ2)

5 十・十一時目を振り返る。

- ワークシートで自己評価をさせる。
- 次時は音読劇を発表し、お互いに見せ合うことを伝える。